

令和元年度 学校教育目標自己評価表

領域	対象	具体的な目標	目標達成のための行動計画・方策など	評価	代表的な意見・評価の理由		
教育活動	全般	生徒の自主性を育てる	自主活動についての議論の場を設定。 生徒自らの手で主体的・自主的な学校生活を送るための支援。	3.9	【自治活動支援】 ・クラス、委員会等での討議が成り立つように、議論の場を有効に活用していきたい。 ・来年度からの55分授業に伴う日課変更や「3つの方針」「グランドデザイン」「未来の学校」等について、生徒会によるアンケート調査や生徒会との意見交換の機会を持ち、学校運営に生徒も一部関わることができるようにした。	【自治活動成果】 ・中学生体験入学に際し、主体的に取り組むことができた点は評価できる。 ・生徒自らの自主性を尊重しつつも、生徒まかせにならぬよう、日頃から注意・助言を行っている。 ・文化祭等、個別の行事については生徒・職員で深く話し合うことができた。	【学年の実践】 ・学年クラスマッチの実施について検討した。 ・幹事会・ルーム長を中心とした学年の自主活動の支援を行った。 ・最高学年の自覚をもって、悔いのない生徒会活動・クラブ活動をまっとうするように助言した。
	学習指導	広い分野で確かな学力を養う	基礎学力の育成。 自学自習ができる向上心・探究心の涵養。 探究的な学びの推進。	3.9	【学年の実践・キャリア研修等】 ・1年夏休みにキャリア研修を実施し、大学と学問研究、企業と職業について理解を深めた。 ・11月にキャリア研修旅行を実施し、学問に対する興味・関心を喚起し、意欲をかき立てることができた。	【学年の実践・HR・学年集会等】 ・キャリアだけでなく様々な観点から外部講師による実践的な講演を行った。 ・夏休み前には進路講演会を実施し、2年生中盤に向けての意識の啓発を行った。また、英語のID取得のための準備、英語の民間試験受験に向けた取り組みなどは、スケジュール通りに実施し、最終的には制度としては見送りにしたものの、生徒の「入試」に向けた意識を高めることはできた。	【教科等の実践】 ・日々の学習を大切に、小テスト等を通して基本的な力が付くように指導した。 ・実験実習をできる限り多く取り入れ、主体的に学ぶ機会をつくることにも、レポート作成で論理的な思考による表現力の育成を行った。 ・基礎学力の定着と思考力を問う問題の研究、福井県からの先生との意見交換を行った。
	進路指導	進路希望の実現を図る	次期教育課程の研究。 生徒の資質・能力を高める指導方法の研究。	3.8	【教育課程の研究】 ・新学習指導要領に対応した新しい教育課程表(令和4年入学生)の作成に向け、研究を進めた。	【探究活動】 ・外部講師による実践的な講演を行い「長野県」と「深志」をどちらかを選択し、探究的な学び・グループワークを行った。 ・課題探究を実施し、限られた時間、機材、人員ではあったが有効に実施することができた。	【教科等の実践】 ・多様な形態の入試・問題に対応して生徒への個別の指導を行った。 ・教員研修として先進校視察を行った。金沢大学附属高校、石川県立金沢泉丘高校で授業参観による授業研究、キャリア教育・探究学習の実践と進路指導の流れをご教示いただいた。
	進路指導	計画的な指導を行う	外部講師による進路講演会、大学説明会、卒業生との懇談、進路通信、学年集会、個別面談、適性検査等を通じた進路意識の啓発。企業や大学と連携したキャリア教育の充実。教員を対象とした進路指導研修会の実施。	3.9	【係の実践】 ・学習実態調査、進路希望調査の結果を校内で共有し、進路指導に役立てている。 ・進路別ガイダンス、模擬講義、卒業生と語る会、大学入試研究会、医学科講演会などを実施して、進路について考える機会を提供している。 ・スタディサポート、模擬試験の分析を行い、各学年の個別指導に役立てている。 ・黎明(合格体験記)および学年通信を通して進路意識の高揚を図っている。	【学年進路】 ・classiを有効活用しながら、生徒・保護者・学年が一体となった進路指導を行った。 ・夏休み前には進路講演会を実施し、2年生中盤に向けての意識の啓発を行った。また、英語のID取得のための準備、英語の民間試験受験に向けた取り組みなどは、スケジュール通りに実施し、最終的には制度としては見送りにしたものの、生徒の「入試」に向けた意識を高めることはできた。	【探究活動・キャリア教育】 ・1学年で夏期キャリア研修を行い、県内企業、事務所、病院、研究所等で研鑽し職業観を養い職業意識を高めた。 ・2学年で秋にキャリア研修旅行を行い、東京都内の企業・大学等で研修し、進路実現に向けて各自の意識の高揚を図った。
	生徒の自治	自治活動を保障し自治的精神を育成する	学級活動・部活動・生徒会活動における生徒の自主性や、リーダー育成のための機会の保障と指導助言。 文化祭・講演会など生徒会行事に対する支援と指導助言。	4.0	【自治活動の涵養】 ・「自治」の精神に基づき、自主性を尊重しつつ、広く社会に受け入れられる人間形成の場として、助言、指導、支援を行った。さらに継続したい。 ・ホームルームと生徒会の関連性を高める方法・手法を研究した。	【生徒会】 ・文化祭をよりよい物にしようとして一人一人がゼロから考え成功させることができた。	【HRの実践・幹事会】 ・幹事会・ルーム長、各種係等を中心とした自主的な組織作りを図った。 ・様々な行事を通して、自主的に行動することの責任感を学ぶことができた。
	生活指導	規律ある生活のリズムをつくる	学習を中心とした生活リズムの確立(部活動・生徒会活動の時間の適正化)。 清掃・保健・交通安全指導。	3.5	【生活リズムの管理・交通安全】 ・自転車事故防止と交通マナー向上のため、HRでの注意喚起や、全職員による街頭指導を実施した。また年度当初(4/18)に交通安全教室としてスクエアードストリートを実施した。	【学年の実践】 ・個人面談の際に学習時間や方法を確認した。交通安全について担当が日常的にSHRで注意喚起を行った。 ・様々なことを意識的に行うよう仕向ける指導をした結果、挨拶もよくなり、自覚を持った行動をすることができた。 ・スクエアードストリートの実施などにより、交通安全の意識を高めた。	【清掃】 ・自らの清掃分担だけでなく、自主的に清掃をする生徒の姿も見られた。 ・生徒自らが気付き、問題解決の方法(清掃方法)をも主体的に行える指導を目指した。 ・問題に気付き、解決の方法を見出すことができれば、行動自体は主体的になった。
	生活指導	適切な個人指導及びカウンセリング体制を充実させる	教科担任・HR担任・クラブ顧問の連携。 スクールカウンセラーとの連携。きめ細やかな生徒相談の実施。 保護者との懇談の実施。	3.9	【カウンセリング】 ・スクールカウンセラー利用についての周知にあたりSC便りの発行や掲示など、昨年度より工夫を重ねた。必要とする生徒・保護者が受けるタイミングを逃さないよう調節にも努めた。 ・スクールカウンセラーの支援のもとに、関係職員が情報を共有し、悩みを抱える生徒や保護者への丁寧な対応につなげることができた。	【サポート体制】 ・管理職、学年、養護、係で、支援の必要な生徒の早期発見と情報共有に努めた。学年の垣根を越え、協力して生徒を支える体制になるよう働きかけた。 ・多様な悩みに対応する相談窓口を複数提示し、担任以外にも頼る場所があることを知らせた。ゲートキーパーの役割を重視し、問題を吸い上げる努力をした。	【学習の悩み】 ・個人面談等の実施により各生徒の状況把握に努め、学年会で情報の共有に努めた。 ・学期ごとの個人面談を通して生徒の状況の把握を行うとともに、学年会で共有を図った。 ・受験勉強の重圧など、精神的プレッシャーに対するサポートに心がけた。
	安心安全な学校	快適な学校環境の整備を図る	危機管理体制の整備。 いじめ・体罰のない学校環境の確保。 健全な職場づくりの推進。 環境対策(ゴミの削減、電気・水道使用量の削減)。	3.8	【いじめ・体罰への対応】 ・日々の観察と共に、学校生活アンケートの結果を踏まえて必要な対応を行った。 【職場環境】 ・エアコンの導入によって、生徒の学習環境は著しく改善された。	【環境対策・危機管理】 ・学校衛生委員会を通じて、年休、振休取得、ドック受診の勧奨、休憩時間でのストレッチ運動の奨励等を行った。 ・年間2回の学校敷地内の安全点検により、危険箇所の改善をおこなった。	【事務室】 ・普通教室などに空調設備が設置された。 ・エアコンの動力に使用する都市ガスを除き、ゴミ排出量、エネルギー使用量、水使用量が前年度より削減された。
	学校運営	保護者との連携を図る	P T A 総会の開催、学年・学級 P T A の開催。 地区 P T A の開催。 保護者面談の実施、適切な家庭訪問の実施。 緊急時メーリング・システムの活用。	3.9	【緊急時メーリングシステム】 ・学校休業日、台風の影響を考慮した臨時休校(カットした授業の回復を実施)、PTAアンケート依頼の件で一斉配信メールシステムを活用した。 ・地区PTAで学校の近況を報告し、保護者との情報交換および課題の共有を図った。	【PTA活動・他校との交流】 ・PTA総会、学年・学級PTAとも例年通り滞りなく開催できた。 ・地区PTAは11地区で開催され、昨年度より1地区増加した。 ・PTA活動の一環として行われた三校(本校、上田、長野)交流会は今年は上田高校で行われ活発な情報交換が行われた。	【学年等の実践】 ・学年PTA総会の折に、保護者向進路講演会などを実施し、保護者の要求に応えるべく工夫した。 ・classiによる保護者配信を行い、コミュニケーションの円滑化を図った。
	開かれた学校をめざす	開かれた学校をめざす	「評価および公開方法」の改善と充実。 保護者・地域・中学校への情報発信。 公開授業・中学生体験入学等の実施。 学校評議員会の開催、ホームページの充実。	4.1	【授業公開・体験入学】 ・授業公開を2回実施し、中学生や保護者、広く地域の方々にも学校の様子を見ていただいた。 ・体験入学は従来の体験授業に替え、「深志らしさ」を中学生や保護者に知っていただけるよう、生徒会中心に運営する企画をとり入れた。初めての試みで改善すべき点もあるが、おおむね成功であり、次年度につなげたい。	【中学校・地域への発信】 ・ホームページや体験入学、授業公開により中学生に本校のことを知ってもらうよう、情報発信に努めている。 ・生徒会の地域交流委員会を中心とする「鼎談深志」の取り組みが定着しつつあり、学校の様子や生徒の動きを地域に周知理解を得る上で有効な手段となっている。	【学校評価・HP】 ・ホームページを適宜更新することで、情報発信に努めている。特に校長通信は毎週欠かさず掲載し、学校の様子を伝えるホームページの中心的役割を担っている。 ・生徒の評価、また学校評議員・PTAによる外部評価をおこない、会報やHPによって報告できるよう取り組んだ。